

2016.6.3

第3種郵便物認可

京 都 新 聞 新 聞

京の日常 重なる歴史活写

右京の愛好家・大島さんが写真集

観光地や名所ではない京都の日常的な風景を切り取った写真集「京都 常のまち」を右京区西院の写真愛好家・大島明さん(68)が出版した。街中に残る運河沿いの景観、古い商店や民家と新しい建物が並ぶ様子など独自の視点で古都の歴史や庶民の暮らしを活写している。

残る情緒 崩れる景観…

大島さんは中学生の頃からカメラに親しみ、長年、教員を勤めながら撮影を続けた。52歳から写真教室に通い、本格的に取り組むようになった。写真は「バスが走る中、古い家並みの所々にコインパーキングが増える光景など、崩れつつある古都の景観を批判的にとらえた作品もある。」



写真集は「市電の道」

ンションなどが混在する

大島さんは「人々の日常の暮らしや歴史の重なりが見える街の景観に美しさがある。写真を見て、京都の過去と未来に思いをはせてもらえたら」と話す。

B5判、120ページ。現代写真研究所出版局刊、2160円。(近藤大介)

観光名所ではない京都の景観をとらえた写真集「京都 常のまち」を出版した大島さん(京都市右京区)